

それぞれの立場を

「Iさん、下校の時にも（交差点に）立って、生徒さんたちに声をかけてよ。」

毎朝私と立っているIさんが、近所の方からこのように言われたそうです。それを知った私は、「グラウンド側から歩いてくる多くの生徒たちが道路を斜めに横断するからだ」とすぐにわかりました。

最近写真の赤い矢印のように横断する生徒が多いということは、私も気付いています。地域の方も同じことに気付き、気になっていたようです。地域の方はなぜ気になったのでしょうか。



手前の横断歩道からこの道に入ってくる車にとつては、道の全体が見渡せるので、横断する生徒の姿がすぐに目に飛び込んできます。おまけに上り坂ですので、見つけた時には、いつでも車を止められるスピードのほうです。

しかし、写真の奥からやってくる車にとつては、右上の家の前辺りで左カーブとなっているため、見通しが非常に悪いと言えます。更には、緩やかな下り坂なので、スピードも出ているはずで、斜めに横断している生徒の発見が一瞬でも遅れたら……そう考えると、この道の斜め横断は非常に危険だと言えます。地域の方は、中学生が「じゃまだから」Iさんに声をかけたのではなく、中学生が「心配だから」声をかけてくださったのだと私は思いました。

私が見ている限りでは、斜め横断している生徒の多くは、渡り切るとくるりと後ろを振り向いて、減速してくれた車に一礼をしています。悪気があつて斜め横断しているのではないことや、生徒たちの謙虚さや礼儀正しさは、ドライバーには必ず伝わっています。だからこそ、そんな中学生が事故に遭わないようにしてもらいたい……地域の方にはそういう思いがあつたから、Iさんに声をかけたのでしよう。

生徒の皆さんは、車の運転の経験がないので、歩行者としての立場から考えることしかできません。歩いているときには大丈夫だと思つたことでも、ドライバーからすると、ヒヤツとすることや不愉快だと思えることは結構あるものです。

例えば、自分たちの方にやってきた車を通過させようと思つた時に、左右両側に分かれてよけることは結構ありますよね。それはドライバーにとって迷惑とは言いませんが、優しいことではありません。なぜなら、車は片側だけに注意を集中させた方が運転しやすいからです。

歩行者の立場、ドライバーの立場、それぞれの立場を理解することが大切です。止まってくれた車に皆さんがする駆け足横断や一礼は、ドライバーにとって自分の運転が歩行者に優しさを与えたこととの証です。ドライバーは喜んでくれるはずですよ！（三月三日記）